



縁の下の 力持ち



遠藤 秀生 さん

今回は、利根川近くの畑を使わせていただいている遠藤さんにお話を伺いました。

●畑を使わせてくださることになったきっかけを教えてください。

: 20年ほど前、近所の知り合いに特別支援学校の先生がいて、その生徒さんが畑に実習しに来たことがあります。その時、子供達をトラクターに乗せてあげたんですが、乗った途端表情がキラキラして、ハンドルを持つのもすごくうれしそうで、その顔が忘れられませんでした。その後なかなかそういうご縁が無かったのですが、今回知人の紹介で吉田理事長と知り合い、すぐに気持ちが通じて、畑をお貸しすることになりました。

●畑をどんな風に使ってもらいたいですか？

: 私は、“畑に来たら、自由に使って下さい”と言います。何も指示しませんし、聞かれなければアドバイスもしません。先生ではないので、子供達と同じ目線です。もし畑や土が怖くてびっくりしてしまう子がいたら、必ず前から近くに行って、一緒にしゃがめばいいと思っています。私にとって、畑はいろいろなことが出来るおもちゃ、遊び場みたいな場所なんです。その遊び場で、自分と気持ちの通じる人達と一緒に遊びたい、楽しみたい、そんな気持ちでいます。

●これから畑でどんな楽しいことがありますか？

: 先日は畑の周りに生えているヨモギをとって、餅つきをしました。秋には芋ほりをして、掘った芋で焼き芋もしたいです。この畑には、うさぎも出ますし、きじの子も生まれます。近くの川に亀やドジョウもいます。段々慣れてきたら、そういういろいろな動物たちとも触れ合って、一緒に遊びたいですね。

仲間のひろば

第5回 波多野 雅美 さん (龍輝くん母)



農園でも一輪車を押したりして、頑張っています！
龍輝で〜す♪

「いもむし」の創立と同時にお世話になって早4年目。この4月から高校生になりました。

Yシャツのボタン、ベルトをするのに苦戦をし、時間がかかっていましたが、今では素早くになりました。日々の積み重ねの大切さを実感しています。

数年後には社会に踏み出す彼に、親として何をすべきか、何がしてあげられるのかと考えた時、一つでも多くの事が自分で出来るようにしてあげたい、たとえ出来なくても、出来ないというのを他の人に伝えられるように、助けを求められるようにしてあげたいと思いました。

高校生にもなれば、自然と親から離れていくのですが、喜ぶべきかまだに「ママ大好き」とラブコールをいただいています(笑)